2015年度

アイヌ感謝祭

首都圏に五千から一万人が暮らすといわれるアイヌ民族。
首都圏アイヌの活動を紹介しつつ、この運動に連なる人々に感謝を捧げる場を今年も開きます。

10月3日(土)

11:00〜17:30

「アイヌ文化ワークショップ」

- **アイヌ語教室**（弓野恵子）
  12:30〜13:30／2F・1,500円（中学以下1,000円）
- **アイヌ切り絵**（谷口滋）11:00〜12:00／2F・1,000円
- **鹿笛作り**（平田篤史）11:00〜12:00／2F・1,000円

「アイヌ料理レストラン・ハルコロ」

11:30〜15:00／1F（鹿肉料理、オハウ、イモシトなど）

「歌や踊り―アイヌプリ on ステージ」

14:30〜17:30 地下スペース・オルタ
当日2,000円、前売り1,500円（中学生以下1,000円）

オープニング「エムシ リムセ（剣の舞）**」**（沖津翼＆宇佐幸将）

アイヌ紙芝居（絵と語り／宇梶静江、アイヌ語語り／弓野恵子）

お話：「世界の先住民族の家族たちから学んだこと」（沖津翼）
アメリカ先住民族団体AIOが主催するリーダー育成プログラムに参加して、アメリカの様々な部族や世界の先住民族と共に学んだ経験、彼らとの学びを通して気づいたアイヌが抱える課題など、次世代のアイヌとしての思いを語る。

歌・踊り（ペウレウタリの会）

マオリの歌と踊り：（友情出演／ナー・ハウ・エ・ファー）

魂を継ぐ（ヤイレンカの歌と踊り）

◇プロフィール

ペウレ・ウタリの会

ペウレ・ウタリの会は、1964年に阿寒湖アイヌコタンでアイヌ民族と和人の親睦団体として発足。以来50年近く、現在は主に首都圏に暮らすアイヌと非アイヌ（和人など国籍・民族を問わず）とが共にアイヌ語・アイヌ文化を学びつつ、日本の先住民族であるアイヌの実際をアピールする活動を続けている。ペウレ・ウタリとは「若い仲間」という意味。

ヤイレンカ

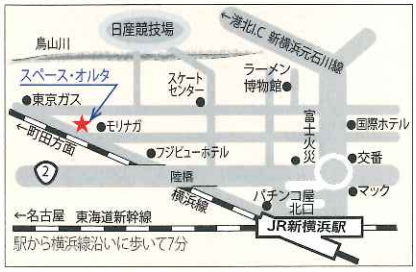
関東在住の若いアイヌ文化伝承者で結成された歌・ムックリ・踊りのユニット。ヤイレンカはアイヌ語で「喜ぶ」という意味。おじいさん、おばあさんの時代の古い歌・踊りを掘り起こして、紹介している。メンバーは宇佐照代、館下直子、宇佐恵美、有里明日香。

ナー・ハウ・エ・ファー (Na Hau E Wha)

「4つの風」（東西南北の各方角から集まった風）を意味する。マオリの伝統と文化を守り、伝えるために結成された日本在住のニュージーランド・マオリの人々のグループ。日本や近隣の国々で講演を行っている。グループの活動は以下のウェブページで紹介されている。www.nhe4.com

主催：チャシ アン カラの会
協賛：スペース・オルタ

●予約・問合せ
FAX:042-763-6602（チャシ アンカラ島田）
TEL&FAX:045-472-6349（スペース・オルタ）



SPACE ALTA 〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-8-4オルタナティブ生活館B1

※チャシ アン カラの会……首都圏にアイヌ文化の発信基地としての砦（チャシ）・活動の場を作ろうと活動しています。　※スペース・オルタは列島の生活文化の多様性と豊かさを応援しています。

首都東京にアイヌが集い、文化を継承する場を

チャシ アン カラの会

歴史にほんろうされながらも豊かな文化を私たちに伝えてくれた先祖たち。それを受け継ぎ、私たちも子孫へと継いでいかなくてはなりません。アイヌ刺繍のひと針、アイヌ木彫りのひと彫り、踊りのしぐさ、ウポポ(歌)の響き合う調べ…全てのなかに、先祖の祈りがこめられています。

私たち首都圏アイヌはアイヌ伝統の地、北海道から遠く離れていても、先祖が残してくれたアイヌ文化の伝承活動を行っています。しかし、私たちが心置きなく集える場がありません。文化の伝承は一人ではできません。コミュニティが必要です。コミュニティには集まる場が必要です。ウタリ(同胞)が広い地域に分散して暮らしている首都圏ではなおさらです。北海道にあるアイヌの生活館のような集いの場を持つことが首都圏アイヌの長年の悲願でした。政府や自治体にこれまで幾度となくお願いしてきましたが、願いはかないませんでした。

2013 年、ニュージーランドの先住民族マオリの取り組みを学ぶプログラムに3名のアイヌが首都圏から参加しました。そのとき学んだのは、何かを実現しようとするには、まず自分たちの手で始めるという、マオリの人たちの運動の仕方でした。マオリの人たちはそうしたやり方でマオリ語を復興させ、学校を作ってきました。集いの場であるマラエも自分たちで経営・管理しています。

集いの場を作って欲しいとお願いするのではなく、自分たちで作る—このとても単純で、重要なことをアオテアロア(ニュージーランドを意味するマオリ語)で学んだのです。私たちはそれまでの「生活館を求める首都圏アイヌの会」を「チャシ アン カラの会」に改めました。「チャシ アン カラ」とは、「自分たちで作る砦、活動の場」という意味です。自分たちが所有し、自分たちが運営する場という意味をこめました。

自分たちの手で作り上げた集いの場にウタリが集まり、文化伝承を通して先祖とのつながりを取り戻す。文化を学び、教え合い、アイヌ民族が辿った苦難の歴史を学ぶ。夜を徹して語り、笑い、泣く。そこから私たちのコミュニティが力強く立ち上がっていくはずです。やがては、その輪にいまはアイヌと名乗れない同胞も加わる。そして、アイヌだけではなく、日本、世界の人たちがその輪をさらに大きくしていく…。

アイヌは「人間」という意味です。首都東京に本当に人間らしい集いの場が生まれ、そこから世界にアイヌの豊かな文化が発信される—その日に向かって、一歩一歩前に進んで行きたいと思っています。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

カラー写真協力：宇井眞紀子／池田宏